令和４年度　江戸川区立松江小学校　学校関係者評価　中間評価用報告書

学校教育目標	「かがやき」 力いっぱい笑顔いっぱい松江の子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	目指す学校像　・明日登校するのが待ち遠しい学校 目指す児童像　・よく考える子・思いやりのある子・健康な子 目指す教師像　・子供たちの明日を考えた指導ができる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ○問題解決学習を基盤にした授業改善　　○校内研究による体育の授業力向上と児童の体力向上へ向けた取組の強化 ＜課題＞ ○基礎・基本の定着や更なる学力向上　　○服務事故0を実現し、信頼される学校を目指す		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業（取組）に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・低学年の完全習得に向けた取組「マスター検定」 ・保護者と連携した家庭学習の取組「家庭学習キャンペーン」	・1年生「繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算」、2年生「かけ算九九」について、全児童が進級までに合格する。 ・各学期1回の実施と内容の充実。ベネッセ学力調査に取り組ませ、結果を考察して個別指導の充実を図る。	B	B	・2学期の学習内容なので、マスター検定を実施できるように、繰り返し指導していく。 ・家庭学習キャンペーンをタブレット端末を活用したeライブラリアドバンスでの取組に変えたことで児童の個別指導に生かすことができた。全国学力学習状況調査では、算数A問題の結果が全国平均と同じになった。	B	・毎年、各学年と校長が、児童の基礎学力向上のため連携していることは今後も続けてほしい。また、学力テストの他に、学校独自のテストを行っていることも、児童の学力の様子が分かってよい。タブレットを使って児童の基礎学力を向上させる取組は、個に応じた指導ができるので、今後も続けてほしい。 ・全国と比べて学力調査の結果をさらに向上させるための取組を充実してほしい。	・マスター検定の計画的な実施と確実な事前指導を行う。 ・ベネッセの学力テストに向けた計画的な取組を立案し、基礎・基本の確実な定着を図る。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・休み時間の外遊びの充実。運動遊び「わくわくタイム」をの計画的な実施 ・体力向上をねらいとした取組「力いっぱいタイム」	・体力調査において江戸川区の平均値を上回る。運動遊び年間35回、体力向上に向けた取組年間3回の実施を目指す。	A	B	・わくわくタイムの計画的な実施及び、力いっぱいタイムの充実により、児童の指導に生かすことができた。	A	・体育の専門性を生かすことができる教員が多くいる学校なので、ぜひ今後も取り組みを継続し、体力向上につなげてほしい。	・なわとびアタックやマラソンアタックの取組で、児童一人一人に目標を明確にさせ、積極的に運動に取り組む機会となるように指導していく。 ・普段の休み時間等の遊びでも、体をたくさん動かすことができるように教師から遊びの工夫を提示していく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学校図書館の計画的な実施及び、司書との連携強化 ・探求的な学習に向けた授業改善	・年間12回、計画的に利用する。司書を活用し、調べ学習の充実を図る。 ・課題設定、情報収集、整理分析、まとめ発表　のサイクルを確立し、どの学級でも主体的・対話的かつ探求的な学習を目指した授業改善を図る。	B	B	・学校図書館の利用をさらに意図的・計画的なものにして調べ学習の充実を図る。各学級で、1学期中に4回実施できるようにしている。	B	・朝読書を継続して行ったり、保護者による図書ボランティアの読み聞かせを行ったり、取組として充実していると思う。 ・調べ学習については、探求的な学習を通して、本の良さが分かるような指導をしてほしい。	・学校図書館の計画的な活用と共に、教職員や図書ボランティアによる児童への読み聞かせなども計画的に実施する。 ・朝読書の時間を活用し、図書を活用した調べ学習を充実させる。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・ユニバーサルデザインを取り入れた教室掲示の全校統一 ・行事ごとの交流及び各教科での交流 ・「わかば学級1日指導体験」の実施	・教室掲示を全校で統一し、刺激を調整して集中できる環境にする。 ・運動会等の行事での交流に加え、授業での交流も活性化する。月に1回程度の交流を目指す。 ・全教職員の特別支援教育への理解を深めるために、1日指導体験を全教職員に実施	B	B	・全校で統一した掲示にすることで、児童が安心して授業に取り組んでいる。 ・全教職員が特別支援学級の一日指導体験を実施できた。	B	・児童が落ち着いて学習していることはとても良い。 ・松江スタンダードを実践は、今後も継続してほしい。 ・特別支援学級への理解が進められていることは非常に良いことであり、異動してきた教員にも今後取り組ませてほしい。	・運動会、体育大会、学習発表会等の行事での交流を密にして、通常級と特別支援学級のふれあいの機会を多くする。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・生活指導職会での共有 ・校内委員会による児童の健全育成に向けた取組強化	・毎週、生活指導連絡会を実施し、各学級の様子や児童の困り感などを共有し、全教職員で指導の統一や見守りを行う。 ・いじめや不登校などの問題に対し、校内委員会を行い、様々な教員で見守りや支援を行っていく。	A	B	・生活指導連絡会を週に1度設定してきたことで、担任だけでない他学年の教員も、当該児童に声掛けしたり、支援したりできるようになっている。	B	・大きな事件や事故がなく、落ち着いた生活ができていることはとても良い。 ・不登校の問題など難しい課題もあるが、連絡会を中心に、学校全体で解決してほしい。	・不登校傾向の児童に対して、全教職員で情報共有するとともに、スクールカウンセラーや専門機関とも連携し、一人一人に応じた適切な対応を目指していく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評議員会の実施	・学校評議員会などにより、地域の意見を積極的に取り入れ、教育活動の改善を図る。	B	B	・感染症の状況によって、学校評議員会が実施できていない。学校評議員会だけに限らず、地域のご意見を積極的に取り入れられるようにしていく。	B	・コロナ禍で関係者との協議会が開催できないことが多かった。運動会や学習発表会など、評議員会以外に情報交換できる機会を大切にし、学校と連携していく。	・学校評議員会は感染状況を見ながらできる範囲で実施する。また、ホームページやお便り等で積極的に情報発信していく。
	家庭・地域の意見のフィードバック	・学校公開等で保護者に学校の様子を周知し、意見をいただくことで指導に生かしていく。	・学校公開後に年間4回の共育アンケートを実施	・保護者の意見を積極的に取り入れ、指導や校内の取組の改善を図っていく。年間4回実施し、迅速なフィードバックを目指す。	B	B	・1学期の学校公開により、保護者の意見をアンケートで収集し、分析・考察したものを保護者に周知することで、2学期の指導に生かす。	B	・1学期末に配布される共育アンケートで、保護者の意見がよく分かった。この意見を参考に、2学期以降に児童の指導に生かしてほしい。	・タブレットの活用、熱中症対策などご意見をいただいているので、教職員で協議し2学期以降の指導に生かしていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・会議時間の短縮、ICTの積極的な利用	・会議の設定時間を適切にすること、事前に検討内容を明示しておくことなどを行い、会議時間の単修を目指す。 ・ICTを全教職員で積極的に利用し、作業時間の削減を目指す。	B	B	・ICTの活用を積極的に促すことで、会議の精選を図っている。今後さらに精選を図っていく。	B	・働き方改革で、会議の精選やタブレットの活用が図られていることが分かった。無駄なことはあまりないと思うが、効率よく職務ができるようにこれからも努力してほしい。	・定時退勤日を全教職員で徹底していくこと、見通しをもった計画的な業務の遂行などを実践していく。
	学習規律・生活規律を全校で統一して指導する。	・松江スタンダードの徹底	・全校で統一した学習規律、生活規律の設定と徹底	・4月に松江スタンダードを保護者に提示し、学習規律・生活規律の共通理解を図り、指導を徹底する。10月までに80%の児童に身に付けさせる。	B	B	・松江スタンダードの徹底を図るために、繰り返い指導してきた。80%には及ばない。特に、タブレットの使用や廊下の歩き方に課題があるので、計画的に指導していく。	B	・松江スタンダードの取組は非常に良い。全児童に実践させることは難しいと思うが、今後も続けてほしい。	・ICTの活用について、スタンダードの徹底が特に不十分である。タブレットの利用についてのきまりを再度全校で共通理解して指導を徹底していく。